

アジア・オセアニア株式市場のサポート材料

アジア・オセアニア好配当成長株オープン(1年決算型)

追加型投信／海外／株式

- 平素は「アジア・オセアニア好配当成長株オープン(1年決算型)」に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
- 本レポートでは、当ファンドにおける足元の運用経過、当面の株式市場見通しや運用方針、および当面のアジア・オセアニア株式市場のサポート材料についてご紹介いたします。

1. 運用経過

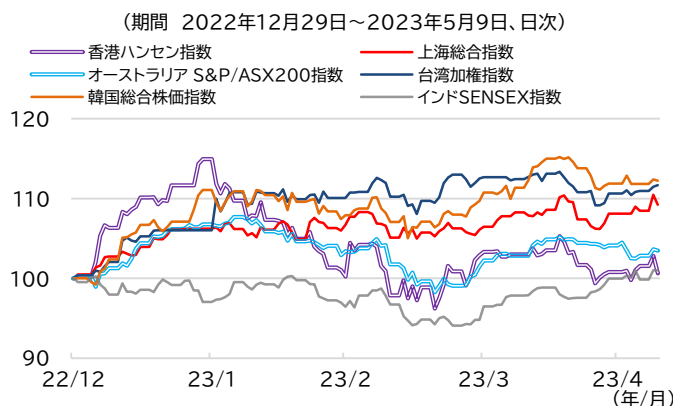
足元の投資環境

4月のアジア・オセアニア地域の株式市場は、国・地域ごとに高安まちまちな値動きとなりました。中旬までは買戻しの動きが継続しましたが、米国において銀行の貸出態度の厳格化による景気減速懸念が浮上したことや、バイデン政権が米国企業の対中投資規制を公表するとの報道から米中対立懸念が再燃したことなどを背景に、月末にかけて下落する展開となりました。

国・地域別では、インド準備銀行(中央銀行、RBI)による政策金利据え置きが好感されたインドなどが上昇した一方、大手テクノロジー関連株の下げが目立った香港や、半導体関連株が軟調となった台湾などが下落しました(図表1)。

当ファンドの5月10日現在の基準価額は、1万口当たり13,695円でした。2022年末から2023年5月10日までの基準価額の騰落率は、約+6.1%でした。

図表1 アジア・オセアニア主要株価指数の推移と騰落率



※2022/12/29を100として指数化

騰落率	4月	5月	年初来
香港ハンセン指数	-2.3%	0.1%	0.6%
上海総合指数	0.8%	2.2%	9.2%
オーストラリアS&P/ASX200指数	2.4%	-0.4%	3.5%
台湾加権指数	-2.8%	2.1%	11.7%
韓国総合株価指数	1.7%	0.6%	12.2%
インドSENSEX指数	4.6%	1.8%	1.0%

※騰落率は4月(2023年3月30日～4月27日)、5月(2023年4月27日～5月9日)、年初来(2022年12月29日～2023年5月9日)で終値ベース。

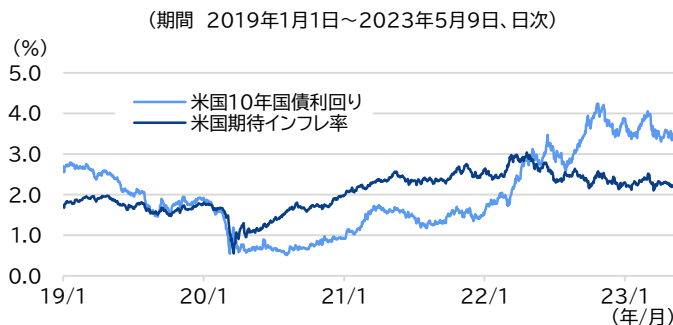
2. 当面の株式市場見通し、運用方針

アジア・オセアニア地域の株式市場は、短期的には欧米金融市場の不安定さを受けて、神経質な値動きになると考えられます。

しかし中長期的には、①米利上げサイクルの終了が意識される中(図表2)、米ドル安へのトレンド転換がアジア・オセアニア地域の株式市場の上昇要因になると思われること、②中国企業の収益見通しが政策支援などを背景に改善傾向を示し始めたこと、③株価バリュエーションの拡大余地があることから上昇基調を辿ると想定しています(2ページ 図表3、4、5)。

運用においては、配当利回りの高い銘柄を組み入れることで安定的な配当収入の確保を目指す一方、成長ドライバーを有する銘柄の選別を図る方針です。

図表2 米国10年国債利回りと米国期待インフレ率の推移



※米国期待インフレ率：米国10年物ブレイクイーブンインフレ率

(図表1～2の出所) Bloombergデータを基に岡三アセットマネジメント作成

3.アジア・オセアニア株式市場のサポート材料

サポート材料①

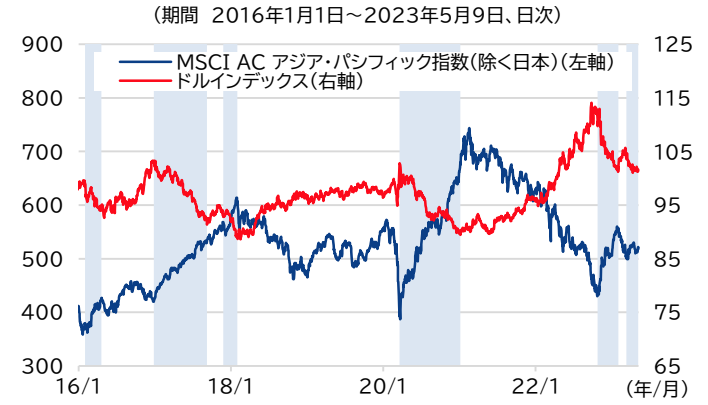
米ドル安トレンドへの転換

2021年から2022年にかけては、金利上昇トレンドの中、米ドル高が進行しました(グラフ赤線)。このような局面では過去、アジア・オセアニア株式市場の上値が抑えられる傾向がありました。

しかし、足元では、利上げサイクルの終了とその後の利下げが市場で意識され始めており、ドルインデックスはドル安トレンドに転換し、今後も軟調な展開が続くと予想されます。

米ドル高から米ドル安への環境変化は、歴史的に見てもアジア・オセアニア地域の株式市場の上昇要因になると期待されます。(図表3)

図表3 MSCI AC アジア・パシフィック指数(除く日本)とドルインデックスの推移



(期間 2016年1月1日~2023年5月9日、日次)
※網掛け部分はMSCI AC アジア・パシフィック指数(除く日本)上昇かつドルインデックス下落時。
※MSCI ACアジア・パシフィック(除く日本)指数は米ドルベース。
※ドルインデックスはBloombergのドル・スポット指数を使用。

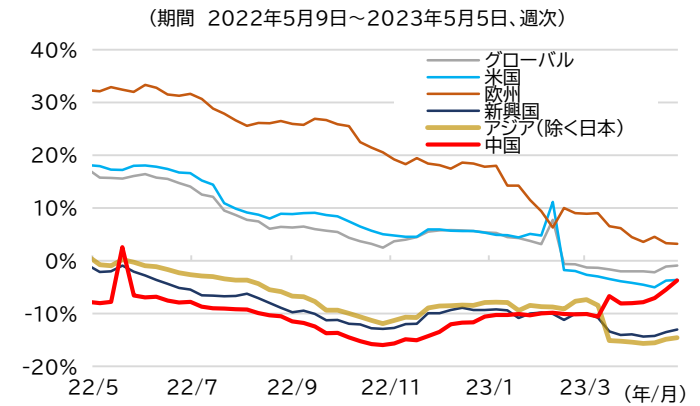
サポート材料②

中国企業の収益見通しがいち早く改善

昨年は多くの国で金融引き締めが行われたことを受けて、企業収益見通しの下方修正が世界的に広がりました。

中国では、昨年にかけて実施されたゼロコロナ政策の厳格な運営が景気の下押しにつながりましたが、足元では中国政府が内需拡大に注力し、不動産市場支援策を導入したことなどが奏功し、世界の他の地域に先んじて企業収益見通しが改善する動きとなっています。これに伴い、経済的つながりの強いアジア周辺国・地域でも収益改善の動きが広がると期待されます。(図表4)

図表4 世界各国・地域のEPS成長率見通しの推移



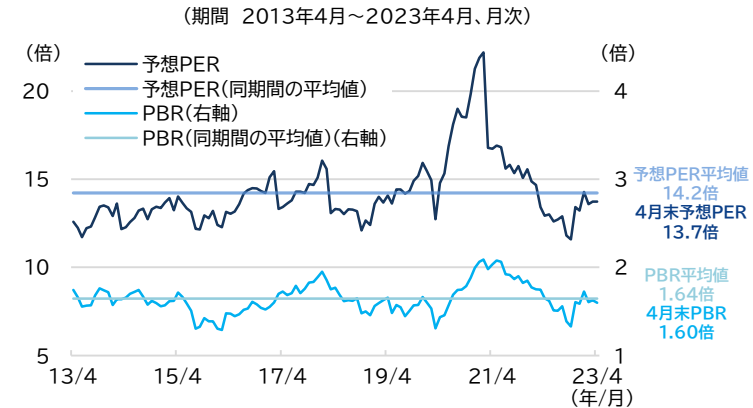
サポート材料③

株価バリュエーションの拡大余地

アジア・オセアニア地域の株式市場の株価バリュエーションに関しては4月末現在、予想PER、PBRともに過去10年間の平均を下回る水準で推移しています(図表5)。

中国政府が重点政策として内需拡大に注力し、今後の中国景気浮揚への期待が一段と高まると考えられること、インドやインドネシアなどの堅調な内需も域内経済の力強さにつながると考えられることなどから、株価バリュエーションの拡大余地があると考えられます。

図表5 MSCI AC アジア・パシフィック指数(除く日本)の予想PER(株価収益率)とPBR(株価純資産倍率)



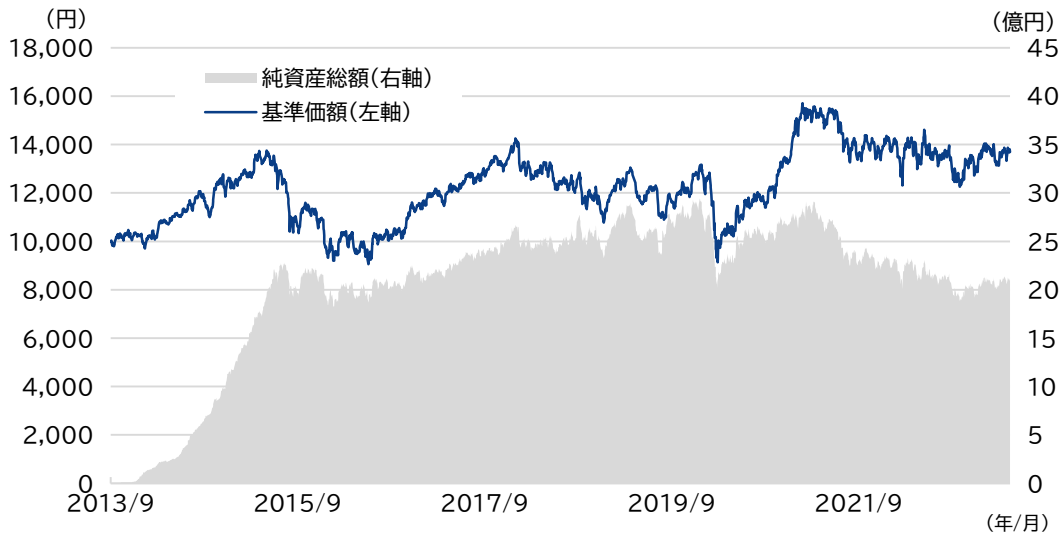
* MSCI指数はMSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(図表3~5の出所) Bloombergデータを基に岡三アセットマネジメント作成

運用状況 (作成基準日 2023年5月10日)

設定来の基準価額の推移

(2013年9月25日～2023年5月10日、日次)



基準価額	13,695 円
純資産総額	20.9 億円

※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
 ※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

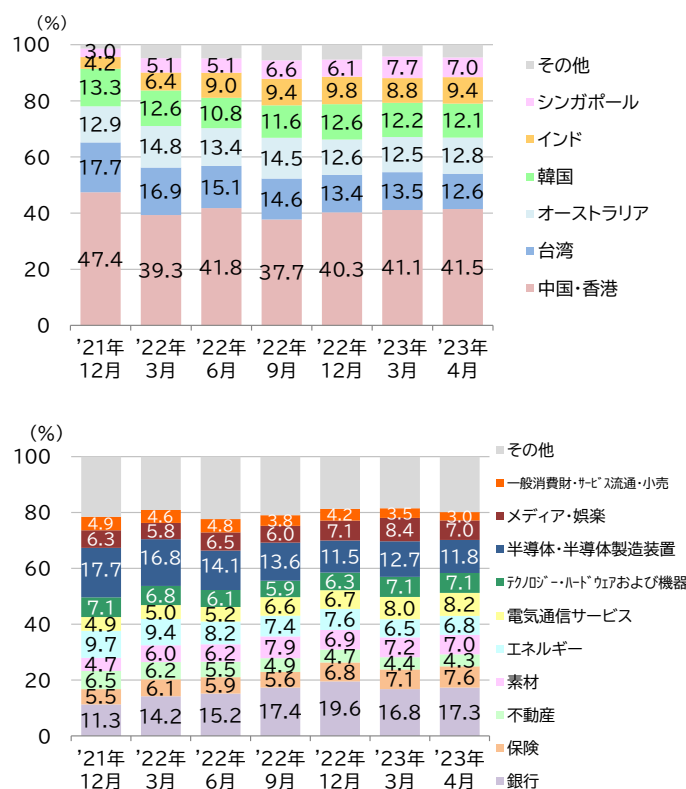
マザーファンドのデータ

組入上位10銘柄 (2023年4月末現在)

銘柄名	国・地域名	業種	配当利回り	比率
1 TSMC/台湾セミコンダクター	台湾	半導体・半導体製造装置	2.2%	8.4%
2 サムスン電子	韓国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.2%	6.1%
3 テンセント・ホールディングス	香港	メディア・娯楽	0.5%	5.1%
4 BHPグループ	オーストラリア	素材	8.9%	3.6%
5 中国建設銀行	香港	銀行	8.1%	3.1%
6 AIAグループ	香港	保険	1.7%	3.0%
7 中国平安保険(集団)	香港	保険	4.9%	2.6%
8 バンクネガラインドネシア	インドネシア	銀行	4.2%	2.6%
9 マッコーリー・グループ	オーストラリア	金融サービス	3.6%	2.6%
10 HKTトラスト・アンド・HKTリミテッド (投資証券)	香港	電気通信サービス	7.1%	2.5%

2023年に入ってから、配当利回りの相対的な高さに着目し、国・地域別では中国・香港を高位とした運用を継続しています。組入上位銘柄に配当利回り水準の高い銀行株や保険株、通信株を積極的に組み入れ、業種別では引き続き金融株の組入比率を高位としております。

構成比



※マザーファンドは、当ファンドの主要な投資対象である「イーストスプリング・アジア・オセアニア好配当株式ファンド(適格機関投資家専用)」のマザーファンドです。
 ※各比率は、マザーファンドのポートフォリオに対する比率です。

販売会社

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	日本証券業協会	加入協会		
			一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
アーク証券株式会社	関東財務局長(金商)第1号	○			
アイザワ証券株式会社	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		
あかつき証券株式会社	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
今村証券株式会社	北陸財務局長(金商)第3号	○			
岩井コスモ証券株式会社	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
FFG証券株式会社	福岡財務支局長(金商)第5号	○			○
おきぎん証券株式会社	沖縄総合事務局長(金商)第1号	○			
香川証券株式会社	四国財務局長(金商)第3号	○			
寿証券株式会社	東海財務局長(金商)第7号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
Jトラストグローバル証券株式会社	関東財務局長(金商)第35号	○			
静岡東海証券株式会社	東海財務局長(金商)第8号	○			
大熊本証券株式会社	九州財務局長(金商)第1号	○			
東海東京証券株式会社	東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
内藤証券株式会社	近畿財務局長(金商)第24号	○			○
中原証券株式会社	関東財務局長(金商)第126号	○			
播陽証券株式会社	近畿財務局長(金商)第29号	○			
ひろぎん証券株式会社	中国財務局長(金商)第20号	○			
北洋証券株式会社	北海道財務局長(金商)第1号	○			
マネックス証券株式会社	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
丸國証券株式会社	関東財務局長(金商)第166号	○			
水戸証券株式会社	関東財務局長(金商)第181号	○	○		
むさし証券株式会社	関東財務局長(金商)第105号	○			○
明和証券株式会社	関東財務局長(金商)第185号	○			
山和証券株式会社	関東財務局長(金商)第190号	○			
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
愛媛証券株式会社	四国財務局長(金商)第2号	○			
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
JIA証券株式会社	関東財務局長(金商)第2444号	○			○
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

販売会社

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	日本証券業協会	加入協会		
			一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(登録金融機関)					
株式会社イオン銀行	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者:マネックス証券株式会社)	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
大阪信用金庫	近畿財務局長(登金)第45号				
帯広信用金庫	北海道財務局長(登金)第15号				
遠賀信用金庫	福岡財務支局長(登金)第21号				
株式会社神奈川銀行	関東財務局長(登金)第55号	○			
北おおさか信用金庫	近畿財務局長(登金)第58号				
株式会社西京銀行	中国財務局長(登金)第7号	○			
株式会社佐賀共栄銀行	福岡財務支局長(登金)第10号	○			
株式会社三十三銀行	東海財務局長(登金)第16号	○			
株式会社静岡中央銀行	東海財務局長(登金)第15号	○			
株式会社荘内銀行	東北財務局長(登金)第6号	○			
城北信用金庫	関東財務局長(登金)第147号	○			
株式会社仙台銀行	東北財務局長(登金)第16号	○			
株式会社第四北越銀行	関東財務局長(登金)第47号	○		○	
高松信用金庫	四国財務局長(登金)第20号				
株式会社千葉興業銀行	関東財務局長(登金)第40号	○			
株式会社中京銀行	東海財務局長(登金)第17号	○			
株式会社東北銀行	東北財務局長(登金)第8号	○			
株式会社徳島大正銀行	四国財務局長(登金)第10号	○			
株式会社栃木銀行	関東財務局長(登金)第57号	○			
株式会社トマト銀行	中国財務局長(登金)第11号	○			
株式会社富山第一銀行	北陸財務局長(登金)第7号	○			
長野信用金庫	関東財務局長(登金)第256号	○			
西中国信用金庫	中国財務局長(登金)第29号				
株式会社東日本銀行	関東財務局長(登金)第52号	○			
株式会社百十四銀行	四国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社福岡中央銀行	福岡財務支局長(登金)第14号	○			
福岡ひびき信用金庫	福岡財務支局長(登金)第24号	○			
株式会社福島銀行	東北財務局長(登金)第18号	○			
株式会社福邦銀行	北陸財務局長(登金)第8号	○			
株式会社豊和銀行	九州財務局長(登金)第7号	○			
株式会社北都銀行	東北財務局長(登金)第10号	○			
株式会社北洋銀行	北海道財務局長(登金)第3号	○		○	

販売会社

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	日本証券業協会	加入協会		
			一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
三島信用金庫	東海財務局長(登金)第68号				
株式会社みちのく銀行	東北財務局長(登金)第11号	○			
株式会社宮崎太陽銀行	九州財務局長(登金)第10号	○			
株式会社琉球銀行	沖縄総合事務局長(登金)第2号	○			

(注) 販売会社によっては、現在、新規のお申込みを受け付けていない場合があります。

<本資料に関するお問合わせ先>
 フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)

留意事項

岡三アセットマネジメントについて

商号・岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長(金商)第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

投資リスク

■投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様に帰属します。ファンドは、アジア(日本を除く)・オセアニア地域の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

■ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」があります。その他の変動要因としては「金利変動リスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

その他の留意点

■ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

■投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。

■ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。

■分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

■投資対象とする投資信託証券にかかる購入、換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消することがあります。

●詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご参照ください。

お客様にご負担いただく費用

<お客様が直接的に負担する費用>

■購入時

購入時手数料 : 購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3% (税抜3.0%)
詳しくは販売会社にご確認ください。

■換金時

換金手数料 : ありません。
信託財産留保額: 一口につき、換金申込受付日の翌営業日の基準価額×0.3%

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

■保有期間中

運用管理費用(信託報酬): 純資産総額×年率1.155%(税抜1.05%)
運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担: 純資産総額×年率1.76%(税抜1.60%)程度

※実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。

■その他費用・手数料

監査費用 : 純資産総額×年率0.011% (税抜0.01%)

■有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用を間接的にご負担いただきます。(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)

●お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

●詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。